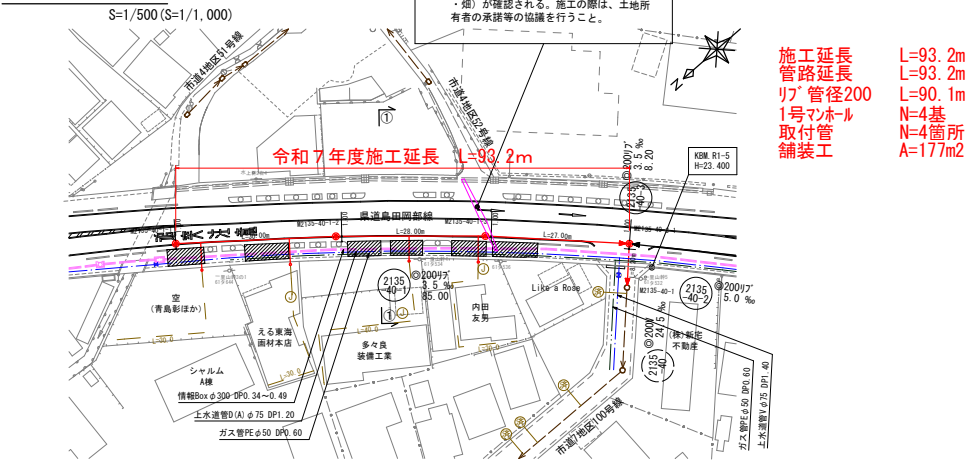
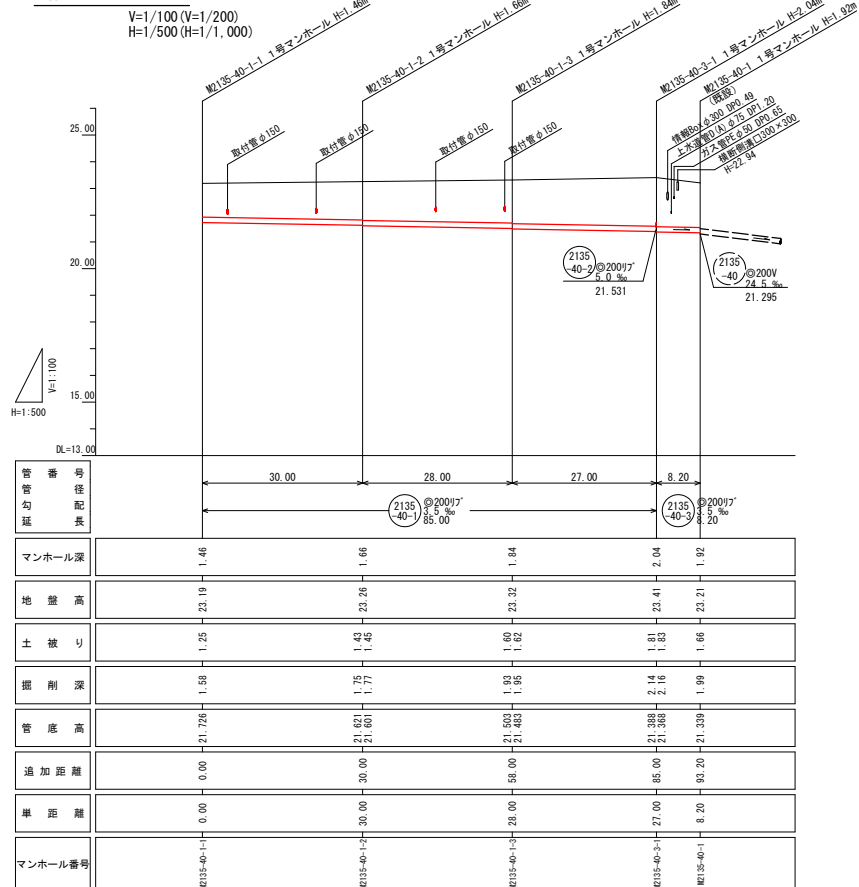


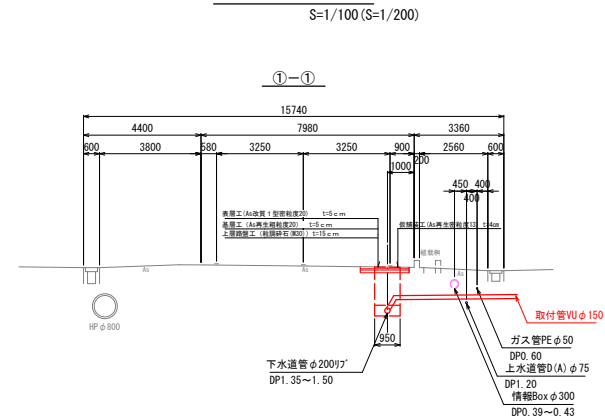
平面図



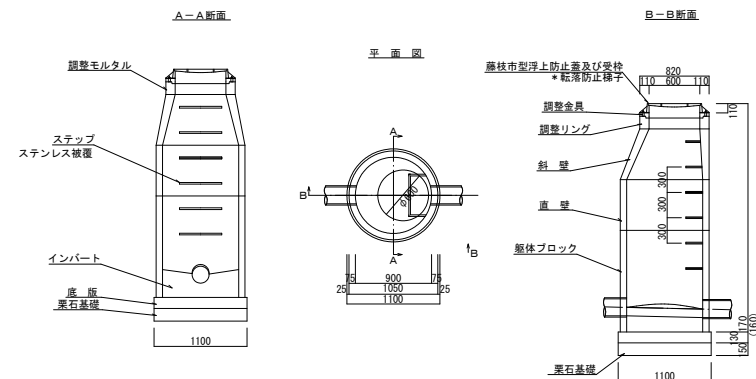
縦断面図



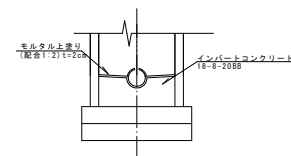
横断面図



マンホール構造図



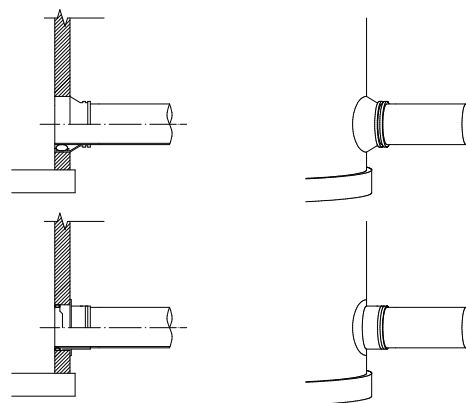
マンホール底部工



* 施工後の路面高の調整のため調整リングは原則入れる。
原則として5cmの調整リングは使用しない。
原則として30cmの斜壁は使用しない。
調整モルタルは、原則2cm以上で施工する。
組合せの変更は、直壁・斜壁の変更とし、その他を変更する場合、協議し決定のこと。
人孔深2m以上のマンホールは、蓋に乾滑防止梯子を設置すること。

建設工事名	令和7年度(社)総県道島田岡部線下水道築造第3工区工事			
図面名	平面図	縦断面図	縮尺	図示
設計年月日	令和7年9月		図面番号	3葉中1号
藤枝市役所 環境水道部 下水道課				

S=nonscale



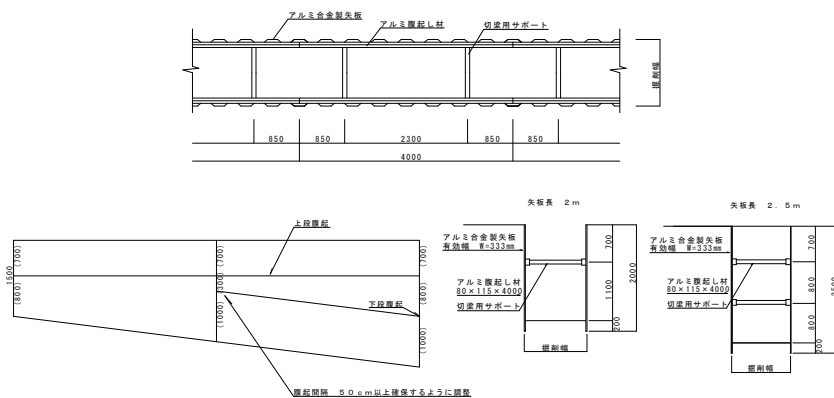
1. 装着型
2. 貼り付け型

※ 1. 上記いずれも使用可能とする。
2. 口径・管種・マンホール種別を確認し、使用が可能か確認のうえ搬入すること。
3. リブ管使用時の可とう継手はリブ管用又は挿口変換継手を使用しVU用でも可とする。

アルミ矢板設置図

$$S=1/50 \quad (1/100)$$

※参考図



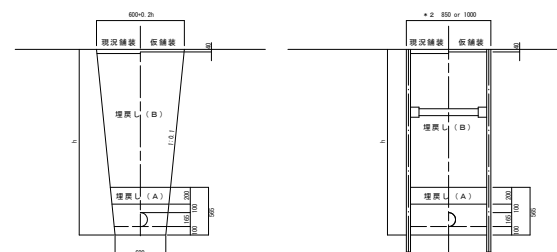
*アルミ腹起し材は上記の規格を標準とし同等品以上の製品を使用すること。

* 20cmの根入れを入れること。土質状態により根入れが困難な場合は監督員と協議すること。（写真管理を要する）

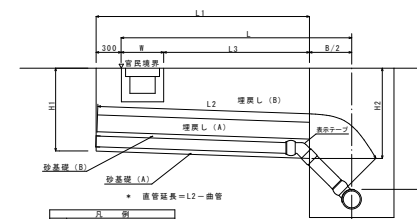
土工寸法図

* 1 タイプA ($h < 1.5\text{m}$)

* 1 タイプB ($h \geq 1.5m$)



- * 1 掘削方法は、掘削深を考慮し選定すること。
- * 2 掘削幅算定表で確認すること。

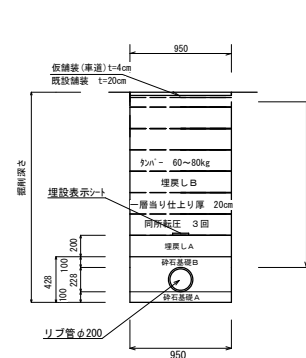


凡 例	
R	本管壁厚度
H ₀	本管土埋深度
H ₁	民埋管埋深
H ₂	本管埋深
h	平均埋深 $(H_1 + H_2) / 2$
L	管长
L ₀	道路占用延长 (水平距離)
L ₁	埋管延長
L ₂	管延長 (斜距離)
L ₃	管底延長

土工定規図

S=1:25 (1 : 50)

車道



埋戻し部については、最大乾燥密度の90%以上とすること。

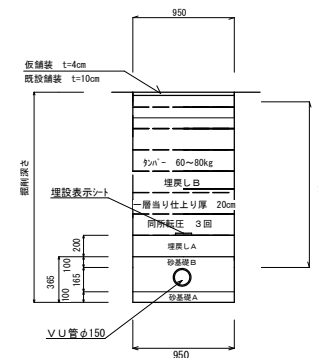
現場密度試験を1回行うこと。(1回は3個の試料採取)

JISA1214、JISA1210A・B法

実施頻度は500 m³につき1回の割合で行う。

3個の試料採取は下層部、中層層部、上層部とする。

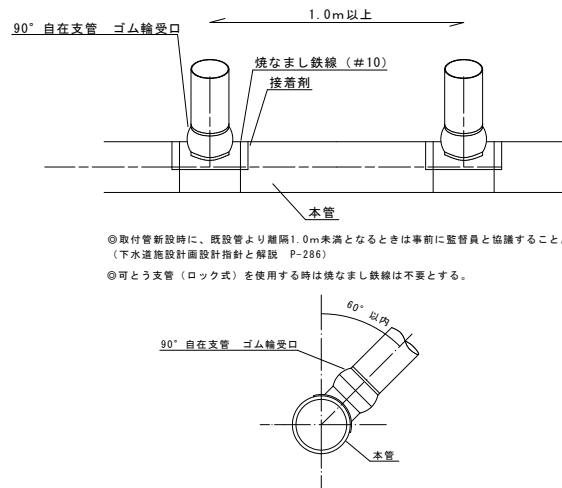
歩道(取付管)



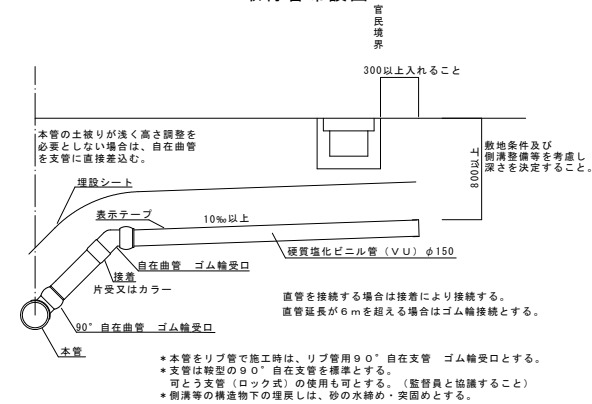
建設工事名	令和7年度(社)総県道島田岡崎線下水道築造第3区工事		
図面名	構造図	縮尺	図示
設計年月日	令和7年9月	図面番号	3葉中2号
藤枝市役所 環境水道部 下水道課			

取付管工

詳細図

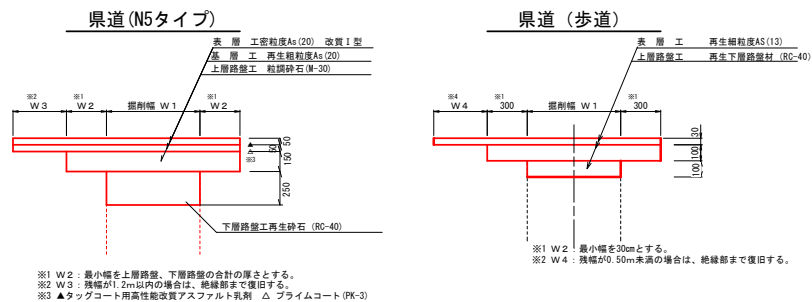


取付管布設図

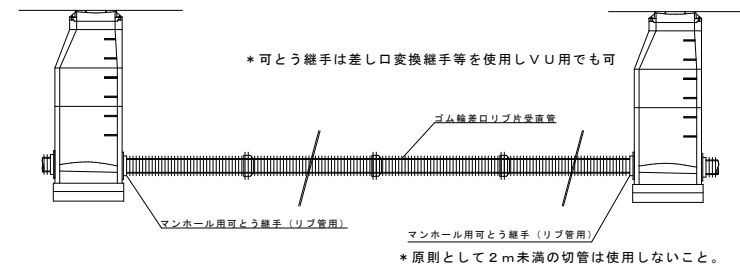


舗装復旧標準図

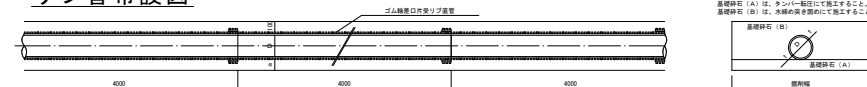
Nonscale



管配置図

$$S=1/50$$


リブ管布設図



建設工事名	令和7年度(社総)県道島田岡部線下水道築造第3工区工事		
図面名	構造図	縮尺	図示
設計年月日	令和7年9月	図面番号	3葉中3号
藤枝市役所 環境水道部 下水道課			